



# 出雲大社 函館教會 社頭だより

平成二十六年春季号  
平成二十六年五月発行  
出雲大社 函館教會  
函館市高松町三二七-三  
電話 五七-四六七七

## ◇◇春季例大祭社頭講話ー要旨◇◇

かくりよ うつしよ

# 『幽世』と『顕世』

神道では、私達が肉体をもつて生きてこの世の事を「顕世」といい、霊魂の世界であるあの世の事を「幽世」といいます。『古事記』『日本書紀』の日本の神話には、国つ神の代表である出雲大社の御祭神「大国主大神」が天つ神の代表神である伊勢神宮の御祭神皇祖神「天照大神」への「国譲り」によつて「幽頭分任の神勅」を賜り、これにより、大国主大神は幽れたる神事の世界、見えざる世界(あの世、霊魂の世界)を主宰される「幽冥主宰大神」(ゆうめいしよさいのつかさのおおかみ)とよのつかさのおおかみ)として御神徳を得たと記されています。その御神徳ゆえに生きとし生けるもの

「魂」のふるさとである幽世を主宰する大神として、今の世に至るまで、幸福の縁を結ばれる「むすびの大神」と敬仰され、篤い信仰をおうけになつて居るのです。旧暦「神無月」に全国の八百万神々が出雲大社へお集まりになり、むすびの神議りされる所以であります。私達の御先祖達はやまことばで、あの世のことを「かくり世」と言つていました。つまり隠れたる世界ということでした。そして、この世のことを「うつし世」と言つていました。つまり、この世はあの世の写し鏡の世界ということでした。この言葉から私達の御先祖達は死後の世界、霊魂の世界であるあの世が元で、私達が肉体をもつて現世で生きて

いるこの世は、あの世の現象が現われる世界だと考えていたことが窺えます。「楠木千年、更に今年

の若葉なり」という句があります。楠木の千年の年輪を加えて大樹となるには、昨年の若葉が枯葉となり今年も今年もまた若葉とヨミガエらせてそして花を咲かせ秋には枯葉となり冬を迎え年輪を重ね、毎年繰返しながらイノチの営みを続けてきたからです。そして千年の大樹となつても、変わることなく若葉を繁らせて千一年目のイノチのヨミガエリを果していくのです。この大樹も目に見えない「根」が大地に根つき、支えなければ、若葉も生えず花も咲かず育たないことになりま

御先祖達が限らない愛情をそそいで下さつて居ることを忘れてはなりません。出雲大社ではこれを「幽頭一如」の道と申して「敬神崇祖」の大切さを説いています。『顕世は幽世の鏡なり』とは、私達自身が心(魂)に刻んだ想念や神仏や御先祖の想念が、自分自身の身のまわりの出来事、現象として顕在化すると今自分がこの世に生をうけているのは、神仏や御先祖や親のおかげであり、そのことに「素直に感謝できる心」をもち、その「祈り」を大切に、そして自分の人生を前向きに明るい想念を心に刻んで生きて居る人には、明るい未来が展開するのであります。

ていることを知るので。このイノチのヨミガエリとその継承は、私達人間にとつても、神一祖一親一自分一子一孫という「命のつながり」を最も大切な心として、幸福な日々を求め祈つた私達の御先祖達の生活の姿を思い描くことが出来ます。日本人の「敬神崇祖」の出発点がここにあります。出雲大社第八十代国造、宮司の千家尊福公は「顕世は幽世の鏡なり」と御教示されています。生きるものはすべて顕世に生きています。また同時に、幽世にも生きて居ること



美しい花を年毎に鑑賞出来るのは、目に見えない土中の「ネ」のたゆまぬいとなみがあるからです。私達は、目に見えない幽冥一カクリヨから御親大神の神事をうけて生かされています。御親大神は幽冥主宰大神とも敬仰します。人を霊止一ヒトと記しますのは、御親大神の幽冥からの神事によつて、イノチのタマシイを分け与えられているからです。この世の顕世一ウツシヨに生きる日々は、霊止としておしえの道をしっかりと歩んで全てをおまかせすれば、幸福の縁に結ばれて楽しい暮らしとなりましょう。顕世を去つて身体が消え失せても、タマシイは幽冥に帰つて幽冥主宰の御親大神の慈愛を戴き、有縁の人びとの守護神と榮えさせて戴けるのです。生死二道かけておまかせしましょう。

御教歌  
出雲大社第八十代宮司  
千家尊福公

幽冥の  
神の恵し  
なかりせば  
霊のゆくえは  
安くあらめや

【歌意】  
幽冥とは、生きとし生けるものが立ち榮えるようにと御親大神が神事を主宰なさる世界です。から、死すればヒトの霊魂は生まれ出た幽冥に帰り入つて御親大神に再び育まれ、生死二道かけての御恵を戴く「いのり」を尽くせば幸榮えの日々です。

◎出雲大社の祈りの言葉【神語】

さきみたまくしみたまもりたまいさきはえたまえ  
**幸魂奇魂守給ひ幸へ給へ**

この「神語」は、出雲大社第八十代宮司・出雲大社教初代管長千家尊福公が明治時代に、出雲大社の御祭神「だいこくさま」を信仰する人々のため宮司家の秘伝をおさとしになつたものであります。尊福公は、著書『神語』の冒頭で、「この詞は天照大御神第二の御子天穂日命の伝え給えし神

例 祭

定例の年間祭事

- ◎元旦祭 (新年祈念祭) 1月1日 午前11時
- ◎節分祭 (厄祓・星祭) 節分の日 午後2時
- ◎春季祖霊社冥福祭 春分の日 午後7時
- ◎春季例大祭前夜祭 大祭前日土曜 午後6時
- ◎春季例大祭・祖霊社例祭 5月第2日曜 午後2時
- ◎夏越大祓 6月30日 午後7時
- ◎秋季祖霊社冥福祭 秋分の日 午後7時
- ◎秋季例大祭前夜祭 大祭前日土曜 午後6時
- ◎秋季例大祭・祖霊社例祭 10月第2日曜 午後2時
- ◎年越大祓・除夜祭 12月31日 午後10時
- ◎月始祭・祖霊社祭 毎月1日 午前11時
- ◎稻荷神社祭 毎月10日 午前8時
- ◎月次祭・祖霊社祭 毎月15日 午前11時
- ◎龍蛇神社祭 毎月16日 午前8時
- ◎日供祭 毎日 午前8時

祖 霊 社

◎祖霊祭

出雲大社の御祭神、  
大国主大神の別の御名に、  
「幽冥主宰大神」という  
尊称があります。

幽冥とは幽事の世界、つまり霊魂の世界のことです。私たちは誰もが先祖のおかげで命を戴き、今日を生きているのですから、この数限りない先祖・縁者の御霊、さらには幽冥稚児(俗にいう水子)の霊を祀るのは、私たちの当然の義務でしょう。

仏教では、普通の人は一定の年数で、「弔い上げ」といい、魂は十万億土の彼方へ行くとし、法要はしなくなりません。が、本来日本人の考えでは、死後の霊魂は、子孫が住む近くの草葉の陰や山などに留まり、子孫たちの生きざまを見つめている、と考えました。そして魂は子孫の魂に働きかけ、甦る、とされました。このご先祖たちの霊魂を神として祀り、より高い神の位に昇つて戴き、より子孫を見守る霊威を高め、蘇生して戴くための祈りが、

祖霊祭なのです。

出雲大社御本社では、これを「祖霊社大祭」として春分・秋分の日には厳かなお祀りが執り行われています。これに準じ、函館教會でも、お祀りを希望された多くの方々のご先祖の御霊を祀り、**霊威の蘇生**を願ってご奉仕しています。

◎一般祈禱

- 家内安全 ○商売繁昌
- 交通安全 ○身体健全
- 厄除祈願 ○良縁祈願
- 進学成就 ○就職成就
- 海上安全 ○大漁満足
- 子宝祈願 ○工事安全
- 病氣平癒 ○諸願成就
- 出雲大社八方除地鎮祭、上棟祭、新宅清祓、店舗開店清祓、結婚式等出張祭典
- その他諸事の御祈禱も、随時受付けております。

◎特殊祈禱

障り除け、悪霊退散、乳幼児虫封じ等の特殊祈禱について、ご相談に応じて随時受付けております。

◎通信祈禱

遠隔地にお住まいの方々のために、諸祈願通信祈禱も随時受付けております。

◎お参りの作法

神前に向かい、身を正して心を鎮めます。

- 一、一拝 (深いおじぎをします)
- 二、祈念 (両手を合わせて頭を下げ、神様への感謝とともに、自分の願いを念じます)
- 三、二拝 (二回深いおじぎをします)
- 四、四拍手 (両手を胸高にして、四度拍ちます)
- 五、一拝 (深いおじぎをします)
- 六、神語を三回唱えます

(胸高に両手を合わせ、深く頭を下げ、心の底から一心に唱えましょう)  
【神語】神様から御霊力を戴くことは  
**幸魂奇魂守給ひ幸へ給へ**  
(さきみたま、くしみたま、まもりたまい、さきはえたまえ)

- 七、二拝 (二回深いおじぎをします)
- 八、四拍手 (両手を胸高にして、四度拍ちます)
- 九、一拝 (深いおじぎをします)

◎出雲大社の御神札をお

祀り致しまし  
しより

出雲大社で授布している御神札を「**出雲大社御玉串**」と申します。この御神札には親なる神、大国主大神様の御神霊がお鎮まりしています。大神様の御神威を拝礼祈念する「御霊」で朝夕に敬拝することによって、大神様の御守護を戴くことが出来るのです。

※類似の御神札にご注意!

◎本紙に関する事、その他ご不明な点がございましたら、お気軽に左記宛てお問い合わせ下さい。

**出雲大社** 函館教會  
函館市高松町三二七-三  
〇一三八-五七-四六七七